

プールを介して広がる感染症

疾患名	原因菌・ウイルス 潜伏期間	主症状	登園の目安 ○予防
咽頭結膜熱 (プール熱)	アデノウイルス 2-14日	39.0°C前後の発熱・のどの腫れ と痛み、頭痛・食欲不振・結膜炎(充 血、涙が多い、目やに)	発熱、充血などの主症状が消失後2日経 過。医師の意見書が必要 ○プール水の残留塩素の保持とおしりの 洗浄、プール後のうがい、手洗い、洗眼 ○タオルを共有しない
流行性角結膜炎 (流行り目)	アデノウイルス 2-14日	流涙・充血・耳前リンパ節の 腫れと痛み	結膜炎の症状が消失していること 医師の意見書が必要 ○タオルを共有しない
急性出血性結膜炎	エンテロウイルス 1-3日	眼痛・充血・目やに	医師より感染の恐れがないと認められて いること 医師の意見書が必要 ○タオルを共有しない
伝染性膿痂症 (とびひ)	黄色ブドウ球菌 溶血性レンサ球菌 2-10日	びらんや水疱病変を形成し、 掻痒感を伴い、病巣は擦過部に広がる	受診して治療をすること 登園届が必要 ○プールの水では感染しないが、触れる ことで感染するので、完治するまでプー ルには入れません。
伝染性軟属腫 (水いぼ)	伝染性軟属腫ウイルス 2-7週間、 時に6か月まで	直径1-5mmのいぼが多数できる。 自然消失する場合もあるが、数カ月か かる場合がある。	登園には制限なし。 ○プールの水では感染しないのでプール に入ってもよいが、つぶれることを予防 するため、耐水性の絆創膏(ケアリー ブ・キズパワーバットなど)で覆う、 ラッシュガードを着るなどの対策が必 要。 ○ビート版、浮き輪、タオルを介して感 染する恐れがあるため、共用を避ける。 ○つぶれているものがある時は、細菌感 染や、他児への感染のリスクがあるため プールには入れません。
腸管出血性大腸菌感染症 (O157など)	腸管出血性大腸菌 3-4日	激しい腹痛、頻回の水様便 (血便)、発熱(軽度)	医師により感染の恐れがないと認められ ていること。 医師の意見書が必要 ○プール水の残留塩素の保持とプール 前のお尻の洗浄
アタマジラミ	アタマジラミ 10-14日	小児では多くが無症状。 吸血部分にかゆみを訴えることがあ る。	受診して治療をすること 登園届が必要 ○プールの水では感染しないが、頭を近 づけて遊ぶことで感染するため入れませ ん。 ○帽子、タオルなど共用しない。